



http://www.geocities.jp/hatoh_net/

第 39 号

発行 放送大学神奈川同窓会
編集委員会

責任者 木村 勝紀

発行日 平成22年6月1日

会員数 553名(平成22年6月1日)



会長就任のご挨拶

神奈川同窓会
会長 木村 勝紀

皆様方に感謝！

前神奈川同窓会 会長 笠井 政記

このたび、神奈川同窓会会長の重責を担うことになりました木村勝紀でございます。これまで副会長として役員末席をけがしてまいりましたが、これも天命と心得て、皆様のご協力を得ながら神奈川同窓会のために誠心誠意努める所存でございます。何卒よろしく願い申し上げます。

歴史と伝統と栄誉を誇る同窓会！

神奈川同窓会は、西暦2010年の節目とともに設立以来満20年の歴史を刻んでまいりました。その間、幾多の卒業生・修了生を擁し、歴代会長をはじめ多くの諸先輩方のご尽力により今日まで歴史と伝統を育んできた栄誉ある同窓会であります。この節目を機に、歴史と伝統と栄誉を財産として、神奈川同窓会を更に発展させるべく微力を尽くしたいと思います。

大いなる誇りを絆に結ぶ同窓会！

放送大学は入学者に対して卒業生が圧倒的に少数です。入学は易く卒業は難し、が特徴といえます。この放送大学卒業、大学院修了を達成したことは社会人として偉大なる栄誉であり、誇りであります。この誇りを絆に皆様と共に神奈川同窓会を一層誇り高き会にして行きたいと思っております。従って、会員であっても、会員でなくても全ての卒業生・修了生を念頭に活動を進めたいと思っております。何故なら、現在は会員でなくても放送大の卒業生・修了生としてのご縁は、終世切れるものではないからです。いつの日か神奈川同窓会の活動を風の便りで聞いて、改めて入会のご縁が結べるかも知れません。

平成22年度は何をするのか！

拝命初年度の活動計画の内容は、総会議案書の第5号議案として、この「波濤」39号の誌上に載せていますので、是非ご高覧頂きたくお願い申し上げます。全国各地の放送大学同窓会に先駆けて、活力ある神奈川同窓会へと新しい旗を掲げて進んでまいります。ご支援ご協力の程よろしく願い申し上げます。

会長を務めさせていただいておりました笠井政記です。会員や関係者の皆様方には、常日頃から同窓会に対しまして、深いご理解と暖かいご支援・ご協力をいただきまして、感謝申し上げます。実は、私、会長に就任することを奨められまして数年前にこの会に入会いたしました。そして平成18年、3年後の同窓会の頂点であります放送大学同窓会連合会の会長に就任することを見込みまして会長に就任いたしました。4年間当会の会長を務めさせていただきましたが、この4年間、放送大学同窓会連合会の業務にも携わらせていただきました。

特に一昨年は、連合会長として、会の業務に携わり、昨年の3月28日には、NHKホールにて行われました大学の学位授与式の後に次いで高輪プリンスホテル「飛天の間」において同窓会主催の卒業祝賀・謝恩パーティを開催いたしました。祝賀・謝恩パーティは、多くの出席者からお褒めの言葉を頂戴し、我ながら大成功のうちに納めることが出来たことが大きな思い出となって心に強く残っております。

この大成功も、関係者一同のご協力、当同窓会の皆様方のご協力があることであります。偏に感謝申し上げます。神奈川同窓会におきましては、何か皆様のお役に立てることが出来たのかと反省ばかりがこみ上げてまいります。このような会長を長らく支えていただきました役員、会員、及び関係者一同にただただ、感謝申し上げます次第です。

連合会の業務を滞りなく務めることが出来、神奈川同窓会の面目を果し満足感に浸っております。この満足感と思い出を胸に抱いて、この度会長職を後任に引き継ぎ退任することになりました。会長を辞したと申ししましても、同窓会を去るわけではなく、相談役として、皆様方から受けました感謝の心を忘れず、陰ながら支援させていただきまします。皆様方におかれましても、同窓会の発展に向けて努力していきと思っておりますので、一層ご支援、ご協力を賜りたくお願いいたします。

終わりに、皆様方に感謝申し上げますと共に、皆様方の今後のご健勝・ご発展を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

第21回通常総会報告

平成22年5月16日(日)午後1時より「第21回放送大学神奈川同窓会通常総会」が神奈川学習センター第7講義室において開催されました。議長及び書記の選出の後、次の議案が提出され審議されそれぞれ承認されました。

審議事項

- 第1号議案 平成21年度活動報告
 第2号議案 平成21年度収支決算報告・及び監査報告
 第3号議案 役員改選
 第4号議案 平成22年度活動計画
 第5号議案 平成22年度収支予算
 第6号議案 会則改定

以上6件の議案はそれぞれ承認されました。

平成22年度活動計画

活動方針

設立20周年を記念する同窓会！
 歴史と伝統と榮譽を誇る同窓会！
 大いなる誇りを絆に結ぶ同窓会！

神奈川同窓会は設立以来20年、歴史と伝統を育んでまいりました。今年度は設立20周年を記念して、現会員のみならず広く全ての卒業生・修了生を念頭に活動をいたします。放送大学卒業並びに大学院修了という榮譽を共有し、誇りを持って、緩やかに軽やかに連帯します。緩やかとは自由にして縛られず、軽やかとはIT利用の困難な会員に配慮しつつ、ネットを活用することです。

活動概要

現実的かつ将来への布石を意識した活動を目指します。周辺関係組織との連携強化、会員の絆を結ぶ仕組の深化、帰属意識の持てる環境整備、恒例行事の発展的継続、そして社会的貢献活動の継続を図ります。すべては同窓会の長期的な課題の解決に運動していきます。表記の通り具体策を講じます。

記

- 1 周辺関係組織との連携強化
 全国同窓会連合会との円滑な連携
 (全国化の中で関係強化)
 神奈川学習センターとの円満な連携
 (放送大学と同窓会の関係強化)
 神奈川サークル協議会との強力な連携
 (在学生との関係強化)

- 2 会員の絆を結ぶ仕組の深化
 (1)「波濤」編集記事の充実
 (IT利用の困難な会員を意識)
 (2)hato-net参加会員の拡充と交信の活性化
 (携帯メールの参画検討)
 (3)「ホームページ」コンテンツの充実
 (参画意識の醸成)
- 3 帰属意識の持てる環境整備
 同窓会シンボルマークおよび同窓会旗の作成
 (放送大学神奈川同窓会)
 同窓会会員証の発行
 (学習センター施設利用許可証)－「同窓会・学生団体室」、図書室、実習室等－
 同好会の開設模索
 (パソコン勉強会、俳句の会等)
- 4 恒例行事の発展継続
 全国卒業・修了祝賀会参画(3月)
 神奈川自主卒業祝賀会開催(9月)
 フェスタ・ヨコハマでの同窓会独自の企画(ビンゴゲーム、お茶席等)
 年2回の企画旅行および
 年1回の映画会・講演会実施
- 5 社会貢献活動の継続と開発
 フォスター・プラン参画の継続(海外向け)
 慈善事業への参画(国内向け)
 その他模索

平成22年度役員体制

会 長	木村 勝紀		
副会長	浅井 公子		
事務局長	吉原 司郎		
理 事	岡本 興和	寺村 紀美夫	
	大木 陸夫	高橋 照夫	
	渡辺 久江	市川 つわ	
	山田 和嘉子	西山 哲郎(新任)	
	金田 保男(新任)	後藤 雄二(新任)	
	赤松 孝子(新任)	家田 禮 (新任)	
監 事	龍造寺 寛		
	志賀 健三		
顧 問	渡辺 慎介		
相談役	藤井 輝	笠井 政記	
退任役員			
	笠井 政記	木下 義則	
	石橋 正彦	星 礼子	
	坂本 春江	森西 節子	
	頼成 敦子		

平成21年度収支決算報告書

平成21年4月1日～平成22年3月31日

1.収入の部

科目	予算額	決算額	差異
(1) 前年度繰越金	3,423,203	3,423,203	0
(2) 本年度収入	663,000	442,682	△ 220,318
① 入会金	100,000	90,000	△ 10,000
② 年会費	550,000	350,500	△ 199,500
③ 寄付金	10,000	1,000	△ 9,000
④ 利子	3,000	1,182	△ 1,818
合計(1)+(2)	4,086,203	3,865,885	△ 220,318

2.支出の部

科目	予算額	決算額	差異
(1) 本年度経費支出	776,000	658,013	117,987
A 活動費	365,000	351,802	13,198
① 会報費	270,000	254,490	15,510
② 活動運営費	70,000	77,812	△ 7,812
③ 卒業祝賀運営費	25,000	19,500	5,500
B 事務運営費	411,000	306,211	104,789
① 連合会活動費	20,000	19,370	630
② 会議費	20,000	6,500	13,500
③ 交通費	120,000	121,540	△ 1,540
④ 通信費	40,000	39,230	770
⑤ 振替手数料費	66,000	39,220	26,780
⑥ 消耗品費	30,000	39,450	△ 9,450
⑦ 交際費	10,000	2,200	7,800
⑧ HP維持管理費	25,000	19,020	5,980
⑨ 名簿管理費	30,000	3,370	26,630
⑩ 雑費	20,000	140	19,860
⑪ 予備費	30,000	16,171	13,829
小計(A+B)	776,000	658,013	117,987
(2) 次年度繰越金	3,310,203	3,207,872	102,331
合計(1)+(2)	4,086,203	3,865,885	220,318

平成22年度収支予算書

平成22年4月1日～平成23年3月31日

1.収入の部

科目	予算額
(1) 前年度繰越金	3,207,872
(2) 本年度収入	651,000
① 入会金	100,000
② 年会費	550,000
③ 利子	1,000
合計(1)+(2)	3,858,872

2.支出の部

科目	予算額
(1) 本年度経費支出	1,141,000
A 活動費	790,000
① 会報費	200,000
② 活動運営費	70,000
③ 卒業祝賀運営費	20,000
④ 設立20周年記念事業	500,000
B 事務運営費	351,000
① 会議費	20,000
② 交通費	120,000
③ 通信費	40,000
④ 振替手数料費	66,000
⑤ 消耗品費	30,000
⑥ 交際費	5,000
⑦ HP維持・管理費	10,000
⑧ 名簿管理費	10,000
⑨ 雑費	20,000
⑩ 予備費	30,000
(2) 次年度繰越金	2,717,872
合計(1)+(2)	3,858,872

平成21年度社会貢献収支決算報告書

平成21年4月1日～平成22年3月31日

1 収入の部

科目	予算額	決算額	差異
(1) 前年度繰越金	925,430	925,430	0
(2) 本年度収入	350,600	232,506	118,094
① 寄付金	340,000	222,400	117,600
② 一般会計より繰入	10,000	10,000	0
③ 貯金利子	600	106	494
合計(1)+(2)	1,276,030	1,157,936	118,094

2 支出の部

科目	予算額	決算額	差異
(1) 本年度支出計	342,000	337,062	△ 4,938
① 援助金	300,000	300,000	0
② 活動費	10,000	10,000	0
③ 事務費	20,000	14,160	△ 5,840
④ 通信費	12,000	12,902	902
(2) 次年度へ繰越	934,030	820,874	△ 113,156
合計(1)+(2)	1,276,030	1,157,936	△ 118,094

平成22年度社会貢献予算書

平成22年4月1日～平成23年3月31日

1 収入の部

科目	予算額
(1) 前年度繰越金	820,874
(2) 本年度収入	310,100
① 寄付金	300,000
② 一般会計から繰入	10,000
③ 貯金利子	100
合計(1)+(2)	1,130,974

2 支出の部

科目	予算額
(1) 本年度支出	342,000
① 援助金	300,000
② 活動費	10,000
③ 事務費	20,000
④ 通信費	12,000
(2) 次年度へ繰越	788,974
合計(1)+(2)	1,130,974

平成22年度会則一部改定

1 改定の理由

ホームページおよび「hatoh-net」の重要性が増したこと（第5条）
 年会費納入管理の複雑性を回避すること（第23条）

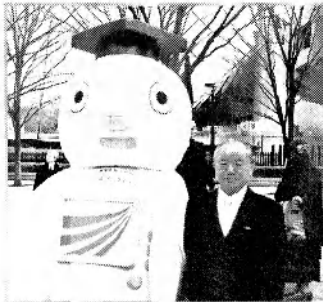
2 改定の内容

改定の内容は次の通り（下線部分に変更部分を示す）

条文等	現行規定	規定変更
第5条	<p>本会は、第2条の目的を達成するために次の活動を行う。</p> <p>一 親睦会の開催</p> <p>二 各種研修会の開催</p> <p>三 放送大学同窓会連合会への活動参画</p> <p>四 会報の発行及び会員名簿の管理</p> <p>五 在学生との交流</p> <p>六 社会貢献活動</p> <p>①フォスター・プラン活動</p> <p>②その他</p> <p>七 その他、目的達成に必要な活動</p>	<p>本会は、第2条の目的を達成するために次の活動を行う。</p> <p>一 親睦会の開催</p> <p>二 各種研修会の開催</p> <p>三 放送大学同窓会連合会への活動参画</p> <p>四 会報の発行及び会員名簿の管理</p> <p>五 <u>ホームページ及び「hatoh-net」の運用管理</u></p> <p>六 <u>在学生との交流</u></p> <p>七 <u>社会貢献活動</u></p> <p><u>フォスター・プラン活動</u></p> <p><u>②その他</u></p> <p><u>八 その他、目的達成に必要な活動</u></p>
第23条	<p>本会の年度会費は1,000円とする。ただし、10月1日から放送大学2学期学位授与式の前日までに入会した者は初年度のみ500円とする。</p>	<p><u>本会の年度会費は1,000円とする。</u></p>
付則	<p>2 改定</p> <p>制定 平成10年5月24日</p> <p>改定 平成14年5月12日</p> <p>改定 平成15年5月16日</p> <p>改定 平成19年6月 3日</p> <p>改定 平成20年6月 7日</p>	<p>2 改定</p> <p>制定 平成10年5月24日</p> <p>改定 平成14年5月12日</p> <p>改定 平成15年5月16日</p> <p>改定 平成19年6月 3日</p> <p>改定 平成20年6月 7日</p> <p>改定 <u>平成22年5月16日</u></p>

投稿コーナー

私にとって真の卒業は未だ



姫田 忠明
NHKホール前

私は、平成13年4月、科目履修生として入学しましたが、当初は卒業することは全く考えておりませんでした。しかし、入学と同時に入った放友会の仲間との交流と、その仲間が次々と卒業することに刺激され、平成19年4月全科履修生(社会経済専攻)として編入学し、今年9月卒業しました。入学の動機は何か、人生80年時代を迎えた時期に、約40年勤めた公務員生活を終えて、生涯学習の一環として放送大学を選んだということです。

理由はいくつかありますが、そのひとつに、退職の前に「これだけは、大事なことですから是非覚えておいてほしい」と言われた、「やることがある」「行くところがある」「会う人がいる」という、3つの言葉が実現できる環境をつくること、例えば、「いくところ」の学習センター(図書室、視聴覚室、談話室等)が、自宅から徒歩約20分のところにあることも長く続けるために大事なことと考えました。

過去に生涯学習ということで大学等の公開講座等を何回か受講しましたが、何れも受講後に受講者は評価されなかった。しかし、放送大学は単位認定試験があり、客観的に受講者は評価されることから達成感を満足させるとの思いがありました。単位認定試験の可否は学習への意欲に影響しますが、最近、次のような文言を読んで、あらためて、成績はともかく学ぶことが大事なことも思っています。

「知らないと言う事と忘れたという事は違ふ。忘れるには学問をしなければならない。忘れた後に本当の学問の効果が残る。」内田百閒「学生の家」(昭和13年) 学生生活では、放送授業は殆ど学習センターで視聴しておりました。同好会は放友会に属し、月例会、旅に行こう会(鎌倉・佐倉・柴又等)、お花見(二俣川こども自然公園バーベキュー等)、ヨコハマ・フェスタ、忘年会(氷川丸等)などへ参加し、inhoyu-netに入会、パソコン教室の受講、放友会ホームページ活用、Eメール交信等により、仲間との交流ができたことは大変良かったと思っています。

今やパソコンは生活の一部です。全科履修生になって卒業を念頭に単位を取得することになり、自由にテーマを選び学習することが少なかったことを、ちょっと反省しております。生涯学習の一環であるから、専攻にとらわれず自

由に教科を選びゆっくり学習し、在籍期間内に卒業することによかったと思っています。

一方、このたびの卒業は、生涯を通じた自己学習の面から見ると、ひとくぎりついた達成感を味わうことができたとも思っています。

学生生活(同好会行事への参加を含め)が楽しいこともあり、今年度2学期から全科履修生(専攻:人間と文化)として再入学しました。今後は、元気で長生き、ピンピンコロリ(PPK)の望み、引き続きこれまでの生活を継続・維持したいと思っています。

「河川網をめぐる開港場へ」に参加して

金田 保男

今年2009年は横浜開港150周年に当たる年との事で、かつての「横濱」をめぐる歴史散策の会を今年も催され参加させて頂いた。横濱は「陸の道と海の道の交差点」とも言われ、それは現在でも通用します。明治20年から明治30年頃の「横濱」の見所は、「河川網」(吉田新田)、「関内・関外」、「大棧橋周辺」、「(現)桜木町駅=(旧)横濱駅」周辺の変遷を実感できるとの事で楽しみにしていた。開催当日は晩秋の「小春日和」、天候にも恵まれ絶好のウォーキング日和となりました。

出発に先立ち、横浜国立大学教育人間科学部教授海老原 修さんの「歩く効用・歩き方」「正しい姿勢」等の指導があった。中でも血液循環を滞らせないためには、歩き方に「milking action」という「牛の乳絞り」の要領で歩く方法を紹介された。脚の踵から爪先にかけて血液をギュッと搾り出すように歩きましょう、という判りやすい説明に私も心がけたいと感心しました。

説明集会后屋外で準備運動を行い「神奈川学習センター」を出発、大岡川沿い下流に向け歩き始める。河岸の桜並木は紅葉の最中で川面には野鳥(鴨)や魚(鯉)の群れが迎えてくれ、この周辺は心安らぐ場所である。やがて大岡川、中村川の分流点「吉田新田」の最先端に至る。ここは横浜の釣鐘型干拓地(吉田新田)の頭に当たる場所で江戸時代初期の大事業とのこと、(説明資料により1656年から1667年にかけて埋め立て終了)当時の干拓や運河網はどのような方法で行ったか興味深い。

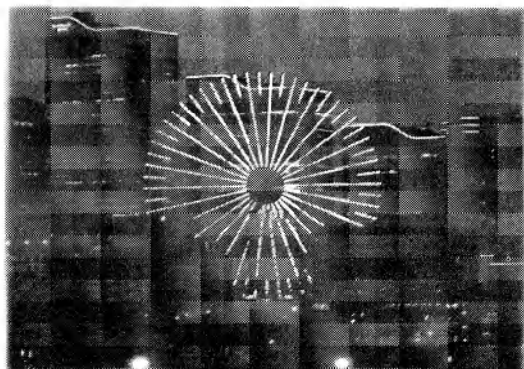
「掘割川」の名称からして当時は人海戦術で切り開いていったと考えられるが、同時に「船」(回漕船)もかなりの規模で発達していたと推測される。(船は、馬の50倍も輸送可能。船無くして土石運搬困難)これより先は、Kサポートの方々事前調査の上丁寧な説明を行ってくれた。現在の「大通り公園」(グリーンベルト→釣鐘の中心線に当たる)は、以前川で埋立地の「潮抜き」のために切り開いた「吉田川・新吉田川」という一本の運河であったが、その役割を終え埋め立てられたとのことです。市営地下鉄「伊勢佐木長者町」の構内に、かつて運河のあった当時の「橋のレリーフ」があり、以前存在した橋の名称および両サイドの町名「蓬莱町、福富町、長者町、真金町」等“お目出度い”名称が記されている。

今回の散策中今迄何度も見ていながら気が付かなかったひとつに、現「シルクセンター」が旧「英国1番館」跡との事。特に「英国7番館」は当時の建造物の一部が保存利用されており、説明を受けないと通り過ぎるところであった。もし私一人で資料調査および現認するとすれば、おそらく3年以上かかるだろうと推定している。今回“K-サポート”の皆様の説明により、何の苦勞も無くそして楽しく、わずか3~4時間で効率よく理解する事ができ、関係者のご尽力に感謝しております。

この「歴史散策」に先立ち、横浜開港の歴史を理解するため予め「横浜税関120年史」等調べていたが、偶然に同窓会ホームページに「永井 藤樹」氏の論文「横浜大空襲」[H21,10,21投稿]が掲載され、今回のウォーキング行程に重なるため、“場所確認”の際助かるので参照させていただいた。

「永井氏」のこの論文は“大変な労作”で調査に相当苦勞された事と推定され、利用させていただき感謝いたします。“場所確認”は意外と時間と労力のかかるもので、地図を見てその場所に行きながら特定できず、また振り出しに戻り同じ場所に辿り着く、その繰り返しです。

横浜の歴史散策を終えゴール到着後、楽しみにしていた「打ち上げ」を「大棧橋鯨の背中」で行う。ちょうど喉も渇いており準備されていたビールが旨い。夕暮れに映える夜景を肴に話もはずむ。同じ光景を見ていても、「仕事」の延長で見ていたときとは違う。現役当時は、運河を見ると幅は何メートルか?水深はどれだけか?港を見ると潮の干満(Tidal Range)は何メートルか?それに伴い、どの程度の船(船級)が通行できるかと常に考えていた。港の光景が美しいとか、ウォーターフロント等全く念頭になかった。何と情緒のない夢のないバカバカしい発想しか出来なかったのだろうか。(現在でも、気になるのは水位だけ) さて、この河川網散策の行事は、来年度以降も継続されると聞く。この間に私は何を考えるか?「神奈川県の中に横浜市があり、横浜市の中に神奈川区がある」この“怪”でも紐解いてみるか!何やら複雑な理由があるようだが、私は当日の話題にもあった「日米修好通商条約」が絡んでいると推定しているがどうだろうか。



大棧橋のデッキで大観覧車の電光花火の祝福を受け完歩の喜びに浸った。

面接授業『出羽路の芭蕉』を受講して (その1)

永井 藤樹

まえがき

「山寺芭蕉記念館」と「立石寺」で、山形学習センターが主催した面接授業を受講しました。平成21年11月7日と8日の両日です。前日真夜中、私たちは車で横浜を出発し、翌早朝盆地特有の濃い霧に悩まされながら、「山寺」へ着きました。山寺駅は山形盆地の外れ、仙台駅から仙北線で1時間、宮城県境にあります。講師は、山形大学大学院 山本 陽史教授です。「出羽路の芭蕉」が「おくの細道シリーズ」の最後になりました。この「シリーズ」は、東北ブロック5県(福島、宮城、岩手、秋田、山形)の学習センター共催の授業です。本文に入る前に、この「シリーズ」のこれまでの経過を参加した友人の話を元に、かいつまんで記述します。初回4月25・26日、福島SCで開催されたテーマは「旅と芭蕉」。二日目に観光バスで、白河の関から須賀川までのゆかりの地を見学。陰曆四月廿日、芭蕉はめざす白河の関を越えて、随行する曾良と共に、待望の陸奥(みちのく)入りを果たしました。ここでは曾良が「卯の花を かざしに関の 晴れ着かな」を残し、須賀川で芭蕉は「世の人の 見付けぬ花や 軒の 栗」と吟じて、ここの草庵のあるじに共感をおぼえています。ちなみに友人はこの句の「誰にも知られず注目もされずに咲く栗の花に、精一杯生きる自分自身を重ねた」と言っています。

2回5月23・24日、宮城SC。「芭蕉と宮城の歌枕」をテーマに多賀城文化センターでの授業、二日目に多賀城址見学。壺の碑(つぼのいしぶみ)から塩釜、松島、瑞巖寺、石の巻までは、なぜか芭蕉は句を残していない。曾良だけが一句を残しています。

3回6月27・28日、岩手SC。「義経伝説と芭蕉」が平泉郷土館で実施されましたが、募集定員が少なく(25名)許可がでませんでした。「夏草や 兵(つわもの)どもが 夢の跡」「五月雨の 降り残してや 光堂」。

4回10月17・18日、秋田SC「芭蕉と象潟の伝承」。象潟周辺と蚶満寺(かんまんじ)を大雨の中二日目に見学。「象潟や 雨に西施が ねぶの花」(象潟は雨に朦朧とうちけぶり、西施の倂(おもかげ)と見たが、実は岸辺に茂るねむの花の、雨にぬれそぼれた姿であった)。

そして、いよいよ最後。第5回が山形SC主催「出羽路の芭蕉」です。私にやっ、この回の受講許可が下りました。

受講生40数名。神奈川からの参加者5名。

本文

この面接で受講してきたことを、思い出すままにランダムに、「おくのほそ道」の「本文評釈」を引用しながら記述・感想を述べます。「出羽路」は、尿前の関(しまえのせき)から象潟までをいいます。

芭蕉と曾良は出羽の国の関所で番人の不審を受け、やっこのことで関を越えます。

行くうちに日も、はや暮れたので国境(くにざかい)を守る番人の家を目当てに尋ね、一夜の宿を頼みます。

しかし、ここで風雨が三日間も吹き荒れて、逗留する仕儀となりますが、名句ができます。「蚤虱 馬の尿する枕もと」(蚤、それに虱。おまけに、暗がりの中で馬の小便する音までが、枕もとにひびいてくる。なんとももの悲しく、侘びしいものだ)。ここで歌われている馬の小便「尿」を何と読むかについて長い間、論争があったということです。「尿(しと)前の関」での作だから、「しと」であるのか、「ばり」と読むかという論争です。この争いは、芭蕉の自筆本『おくの細道』が発見されたことで、終止符が打たれました。そこに「バリ」と、はっきりルビがふってありました。芭蕉がわざわざ「バリ」という下品な読みをしたのは、旅の労苦を強調したかったからでしょう。しかし、だからといって、この句の文学性は少しも損なわれていません。芭蕉は五月十五・十六日堺田(さかいだ)で泊りを重ね、尿前より山刀伐(なたぎり)峠を越えて十七日に尾花沢(おばねざわ)に着きます。山刀でたち伐ったかのような険阻な峠を想像しましたが、実際はなだらかな峠だと地元の受講生が話していました。

尾花沢で芭蕉は、江戸で俳交のあった紅花問屋を営む富裕な清風の家でもてなされ、長旅の労をねぎらわれます。「涼しさを わが宿にして ねまるなり」。あるじの好意に任せて、ゆったりとくつろぐ芭蕉の姿が見えるようです。「眉掃きを 倂(おもかげ)にして 紅粉(べに)の花」。女性がお化粧に使う眉掃きの形に似た紅花に、なまめかしさとやさしさを感じています。芭蕉は陽暦の7月3日から27日までの暑い夏を、清風の家で長逗留しました。よほど居心地がよかったのでしょう。そして、いよいよ私たちが受講した「山寺 立石寺」です。この「立石寺」の読み方について、事前にある人から宿題を戴いていました。「りっしゃくじ」と読むのか「りゅうしゃくじ」と読むのかという宿題です。地元山寺では「りゅうしゃくじ」。数年前まで中学の教科書では「りゅうしゃくじ」、今は「りっしゃくじ」。古文書翻刻本には「りふしゃくじ」とルビ。

PCの漢字変換では「りゅうしゃくじ」では出てこない。広辞苑は「りっしゃくじ」。山本先生の回答は、「りゅうしゃくじ」は仏教語、江戸時代も「りゅうしゃくじ」と読んでいた。今は「りっしゃくじ」に統一しつつあるということでした。読み方の問題がでましたので、『おくの細道』の表題について質問し、先生の回答を戴きました。私の持っている昭和三十年発行の角川文庫 頼原(えばら)退蔵・能勢朝次譯注『奥の細道』(附現代語譯)(定価70円)は、「漢字表記」。この面接で指定された教科書は平成二十一年発行、同じく角川文庫 頼原退蔵・尾形 仵(つとむ)訳注『新版おくのほそ道』(現代語訳/曾良随日記付き)(定価:本体705円)は「ひらがな表記」。漢字からひらがなに変ったのは、写本が「おくのほそ道」になっていたの、写本に合わせた表題にしたということ

です。ところが、最近になって発見された芭蕉自筆の木版刷りは『おくの細道』。だから、今後は『おくの細道』になるそうです。そしてこの本の「尿前」の句の尿の字に「バリ」と、カタカナルビがふってあるのを見せて戴きました。立石寺に戻ります。山形領内に「立石寺」という山寺があり、格別に清閑の地であるから行ってみるとよいと人々に勧められます。尾花沢からは予定とは逆方向に引き返す行程になって、次の予定地大石田は指呼の間なのに立石寺は大きくコースが外れ、この間七里(28km)ありますが芭蕉は立石寺に向かいます。芭蕉の精神の若さ、俳諧の真髓を究めたいとする求道の精神です。日もまだ暮れていないので、麓の宿坊に宿をとっておき、山上の僧堂に登ります。岩に岩が積み重なり、土・石に苔が覆い、山上の支院はみな扉を閉ざし、物音ひとつ聞こえない。断崖をよじ登り、仏殿を拝し四圍の美しい景色はひっそりと静まりかえって、心が澄みきっていく。「閑かさや 岩にしみ入る 蟬の声」。

時は五月二十七日(陽暦7月13日)。すでに真昼時を過ぎていますが、夏の長く暑い一日は、まだ暮れていません。さて、ここで先生の質問が入りました。鳴いている蟬の種類は何か、蟬は一匹か、複数か、全山覆う程の蟬の声だったのか、或いはまったく鳴いていなく芭蕉のフィクションだったのか。先生は毎年7月13日前後5回登った結果、蟬の声を耳にしたのは一回だけ、それも一匹だけだったそうです。320年前(1689年)を想像するのは難しいことですが、私は、全山覆い尽くす程の蟬が鳴いていたと思いたい。聞こえてくるのはただ蟬の声だけ。ひたすらに夏の日の短い命を輝かせて、あらん限り一心不乱に鳴き続けている蟬の声が閑寂の極みに達し、心にしみ入ったのではないか。「佳景寂寞として心澄みゆき」新しい詩境を拓いたこの一句は「おくの細道」紀行の中で絶唱の一つです。立石寺の宿坊に一泊した芭蕉一行は六月三日に船で最上川を下ります。その2(次号)に続く

チャイルド訪問の思い出 ～タイのソムチャイ君を訪ねて～

星 礼子

今から10年前の2000年(平成12年)の2月、神奈川同窓会フォスター・プラン委員会を中心に6人の有志でタイのソムチャイ君を訪問しました。1992年、同窓会では先輩方のご尽力により社会貢献の一環としてフォスター・プラン活動に参画、ガテマラのピラールちゃんという女の子が私達の最初のチャイルドとなり、以来18年皆様のお陰で現在も5名のチャイルドを継続支援しております。

チャイルド訪問の目的は長年の夢であったこと、プロジェクトの成果、会員からの寄付金などがどのように使われているかこの目で確認すること、そしてチャイルドは手紙の交流ばかりでなく私達ペアレントに現地に会いにきて欲しい、

と願っている事を知ったからです。訪問先は1993年の9月から支援を始めたタイのソムチャイ君と決まりました。チャイルド訪問に際しては少なくとも6週間前にフォスター・プラン協会へその旨連絡します。現地事務所やコミュニティでペアレントの受け入れの準備をするため、私達は事前に家族、コミュニティの資料に目とおし、簡単な挨拶の練習やおみやげなどの準備もしました。

同窓会のホームページに掲載されていますが、波濤19号に「ソムチャイ君との感激の対面」として初代会長・別所氏の報告があります。私にとっても忘れがたい感動の旅の一つとなっています。バンコクから1時間のフライトでラオス国境に近いウドンタニへ、そこから2時間近く走り村の現地事務所に着。ノンサムラン小学校には、7才の可愛かった男の子が14才(何故か6年生でした)の少年になり、先生とはにかみながら運動場に現れたソムチャイ君がいました。体格の良い凛々しい少年に成長し、ご対面は本当に胸がときめくものでした。珍しそうに眺めている他の子供達はほとんど裸足、飴をあげると手を合わせシャイで礼儀正しい子供達でした。校舎の壁には、プラン・インターナショナルの援助で修理されたものと文字が書かれており、職員室でおみやげの説明をした後、先生が質素な教室、屋外の給食を食べる所、水飲み場、図書室、雨水タンクなど校内を案内してくれました。

帰りにウドンタニのメインオフィスのスタッフと村の現地事務所のスタッフと一緒にソムチャイ君の高床式の家に寄りました。皆で手作りの食事をご馳走になり継父、町に働きに出ているという母親、弟、おばあちゃん、そして親類、近所の人も集まり、ソムチャイ君はその中で私達にとっても気遣いをしてきていたのが印象的でした。彼はフォスター・プランから奨学金を受けており、他の子供達も各国のペアレントがいるとの事でした。

その後2002年3月、ソムチャイ君は援助圏外転出という理由で登録終了となりましたが警察官になりたい、という夢を実現しているのでしょうか。村人はフォスター・プランのいくつかのプロジェクトを実行するためにコミュニティ組織を作り、天然資源や環境を保全する役割を担うようになり、子供達の権利の向上、保健施設など生活水準を上げるべく取り組んでいるとのことでした。

皆さまも機会がありましたら、是非チャイルドを訪問してみることをお勧めします。



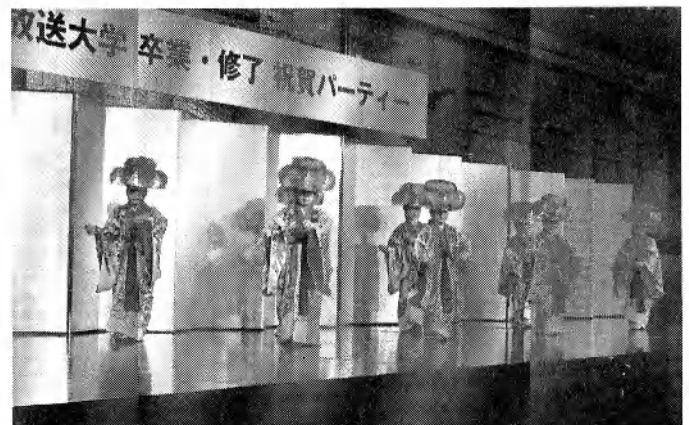
タイのソムチャイ君を訪問

放送大学学位記授与式 卒業・終了祝賀パーティーに出席して

佐楽 慎二

桜の開花宣言が出され、春の陽気に恵まれた3月27日に放送大学の学位記授与式がNHKホールで行われました。代表者への卒業証書・学位記授与などの恒例行事が行われた後、ゲストとして歌手の小椋佳さんが登場し、ご自身が退職後母校の東大大学院で勉強したこと、奥様がこれに刺激を受けて放送大学で学び卒業したことなど、生涯学習の楽しさを語り、最後に卒業祝いに3曲心のこもった歌を歌ってくれました。

その後のニューオータニホテルでの祝賀パーティーは、大きな「鶴の間」一杯の参加者で、沖縄学習センターの琉球サークルによる華麗な琉球舞踊も披露され、アルコールも入って和やかな雰囲気皆で卒業を喜び合いました。私は昨年9月に卒業しましたが、卒業生代表の謝辞で語られた真剣な学習への取り組みや、グランドスラム達成者が11人もおられたことに強い感銘を受けました。そして何より放送大学で学ぶ仲間が全国にこんなにもたくさんいることを目の当たりにし、今後の自分の学習への意欲を強くすることができました。



沖縄学習センターの琉球舞踊

神奈川学習センターの卒業生



行事だより

平成21年度、第2回企画行事は歌舞伎座さよなら公演「仮名手本忠臣蔵・昼の部」を11月21日、「二月大歌舞伎・昼の部」を2月10日に鑑賞会を開催しました。チケット手配の都合などから2回の開催となりましたが、22名の参加がありました。その中のお一人に感想を寄せていただきました。

歌舞伎鑑賞に参加して(11月21日)

歌舞伎座さよなら公演(あと161日)

仮名手本忠臣蔵 昼の部 11時～16時

坂本 春江

歌舞伎座は明治22年(1889)11月21日に第一歩を歩みだし以来100年以上の永きに渡って上演をし続けている。途中2度による焼失で建て替えられ、昭和26年(1951)1月に現在の歌舞伎座が復興し今に至っている。そして平成22年(2010)4月末で今の歌舞伎座での公演は終わりとなる。仮名手本忠臣蔵は誰もが知っている江戸時代元禄に起きた赤穂浪士の討ち入り事件を扱った芝居である。これは討ち入りから47年後の1748年に人形浄瑠璃(文楽)として初演され、同じ年に歌舞伎にもなった。徳川幕府は同時代の武家社会の事件を劇化するのを禁じていたので、芝居の作者は時代や人物を実際とは変えてカモフラージュする必要があったという。この演じ物は足利時代とし舞台は鎌倉に設定して鶴岡八幡宮の名も出てくるし、浅野内匠頭こと塩冶半官の屋敷が扇ヶ谷である。

この日の配役が勘三郎、富十郎、幸四郎等々立派であった。昼の部一番の見せどころ第三幕(四段目)切腹の場、今までに映画やTVで見ている場面であるが歌舞伎ならではの臨場感にホール全体が息を呑む思いで見入っていた感動の場面であった。第四幕の踊りが歌舞伎の楽しみの1つでもある。歌舞伎は本当に美しく、絵物語を見ているようである。さて、この度はイヤホンガイドを利用した。歌舞伎のしきたりや習慣も教えてくれる。その中で、2つ程興味があった。1つは“東西!とうざい!”と物のはじめに大声を上げる、これは“お静かに!おしずかに!”ということだそうだ。2つ目は役者を紹介する前に“えへん!えへん!”とこれも又大声で言い有名役者の前につける、特に大役者ほど大げさに言うとか。“今日はこのような立派な役者が出るのだぞー!”と。

お芝居の後、皆でサッポロライオンまで歩きそこで咽喉を潤しながら大におしゃべりをして楽しい1日を過ごすことが出来ました。チケット購入にご尽力くださり、お気使いを下さった幹事さん誠に有難うございました。同窓会のイベントに参加していろいろな方と一緒に楽しめる時間が持てたことの素晴らしさを感じました。

11月の歌舞伎座前にて記念撮影

学問のススメ

「冬の公開講演会」実施報告

木下 義則

平成22年2月28日午前10時から12時まで、放送大学神奈川学習センター第8講義室において、神奈川サークル協議会主催の「冬の公開講演会」が開催されました。神奈川サークル協議会には神奈川同窓会も構成員として参加しておりますが、昨年より、より多くの来場者を得るために相乗効果を期待し、午後開催の同窓会主催による「映画鑑賞会」との共催という形態で開催しました。当日は生憎の天気にもかかわらず会場には学生・同窓生等が集まり溢れんばかりの状態でした。

今回の講師は、神奈川学習センター所長の渡辺慎介先生です。演題は「学問のススメ」というタイトルで、東洋人と西洋人のものの見方の違いをいろいろな例示や書物の引用等を織り交ぜながら判り易く解説していただき、思考のかたちの相違から「思考の地理学」(『木を見る西洋人森を見る東洋人』リチャード・E.ニスベット著、村木由紀子訳・2004年6月出版)という新しい学問分野が生まれた。

日本では、福沢諭吉が明治5(1872)年から明治9(1876)年にかけて『学問のすゝめ』を17編の分冊として発行。明治13(1880)年に合本して1冊の本として出版した。啓蒙思想家・福沢諭吉の大ベストセラーである。本書は国家と個人の関係を見つめ、世のために働くことで自分自身も充実する生き方を示した。彼の言葉は全く色あせないばかりか今の時代にこそ響く。当時の社会的反響などを考察し、また、山本義隆氏(駿台予備校物理講師・元東大全共闘議長)の主張などを踏まえながら、何故我々は学ぶのかという問いに、「学問をやるということは知識を得て自分を表現することである。」という一つの回答例を導き出した。しかし学びへの志向の多様性を充分踏まえ皆さんも何故学ぶのかを考えて下さいとご講演を締めくくられました。その後、質疑の時間となり、多くの学生等から質問が出され、一つ一つの質問に懇切丁寧に答えていただき、同窓生・学生とセンター長との有意義な意見交換ができたのではないかと考えます。

最後に参加者一同からの感謝の気持ちを込めて花束を贈呈し講演会は終了しました。



フォスター・プラン講演会から

スポンサーシップの新しい試み
"スクール・スポンサーシップ"

坂本 春江

スポンサーシップとはスポンサー(支援者)が子供や住民たちが進める地域開発を資金面から継続的に支え、チャイルドやその家族との手紙や写真などの交流を通じて活動地域の人々との相互理解を深める支援方法である。

2008年にプラン・ジャパンは新しい試みとしてチャイルド個人でなく学校のクラスを対象とし、クラスの人数に見合うスポンサーが見つかる方法をとった。

場所はベトナム中部山岳地域ガオ村、標高1200メートルの地域である。最近では経済的にも元気なベトナムだが、この地域の現状は国の発展から取り残されがちであった。ガオ村は少数民族でベトナム語は話せず現地語を使い、険しい地形から家もぼらつき、水は川や雨水を使い、トイレもなく道路は雨季には寸断され寒さも厳しい所である。

そこで、ぼらぼらの集落や村をつなげ、子供同士、大人同士のつながりを作りやすい所、又教育や集団行動の機会のある学校を拠点にして子供を中心に地域をつくるプロジェクトを始めた。

今までは子供1人にスポンサー1人と言う対象であるが、手紙や写真などの交流の習慣のない地域ではチャイルド側に逡巡の傾向もあったようだ。

この試みはクラス全体と複数のスポンサーを対応させる。学校では授業の一環としてスポンサーへの手紙や絵を書いたりする時間をとり、クラスで話し合ったり、助け合ったりして、クラスの皆がとても盛り上がり今までにない良さが得られたと言う報告である。

2009年には本格的な活動に入り学校にトイレや水道もついたところがある。このプロジェクトでは、子ども会をつくり子どもの意見を聞いたり、子どもに子どもの権利を教え、子どもらしい生活とイベントへの参加の喜びを知らせる活動や、先生にコミュニティボランティアに関するトレーニング等を始めているとのことである。

スクール・スポンサーシップは現在ベトナムだけの試みではあるが良い効果が現れているように感じた。もっと幅広く行われていくことを望み応援をしたいと思う。

映画鑑賞会

高橋 照夫

映画鑑賞会は、講師に横浜映画研究会会員の西浦久晏氏(同窓会会員)による講演と氏の選定による映画鑑賞を行った。講演の演題は『映像文化(映画)と文字文化(文学)』で、東西古今の文学作品が映画でどのように表現されているかについて、映作品の中から事例を上げて、映画的な技法(音響効果、セット、カメラワークなど)に

ついての興味深い内容であった。

映画鑑賞は氏の選定によるイギリス映画『日の名残り』。この作品は、英国の名門家に一生をささげた老執事の半生を回想する人間ドラマであるが、主人公アンソニー・ホプキンスの繊細な演技、時代背景の丁寧な説明、舞台となる貴族屋敷の生活の様子など見所が満載で、あまり知られていないがかくれた名作で、参加した会員からは大変よい作品という感想が寄せられた。



平成22年度企画行事

▼H22.06.05(土)

「風を感じて歩こう・鎌倉」ハイキング

▼H22.09.05(日) フェスタ・ヨコハマ

お抹茶コーナー・ビンゴ大会

～波濤40号で詳細はご案内します～

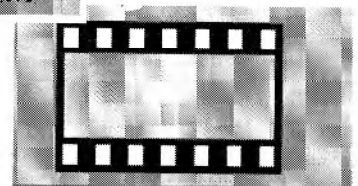
▼H22.11.27(土) 秋の旅

▼H22.12.11(土) 同窓会忘年会

▼H23.02.27(土) 映画鑑賞会・講演会

(放送大学神奈川サークル協議会と共催で開催)

皆様の多数のご参加をお待ちしております



2月の映画鑑賞

同窓会ホームページの状況について

寺村 紀美夫

同窓会のホームページ(以下「HP」)は、同窓会の目的である「神奈川同窓会は、会員の親睦、情報交換、相互研鑽、社会への貢献並びに放送大学の発展に寄与することを目的とする」を具体的に実践するために2008年1月より開設されたものです。特に会員相互の親睦、情報交換に寄与していくものと思っています。テスト開設(2007年9月)から2010年1月までのHPアクセス数は以下のグラフとなっています。

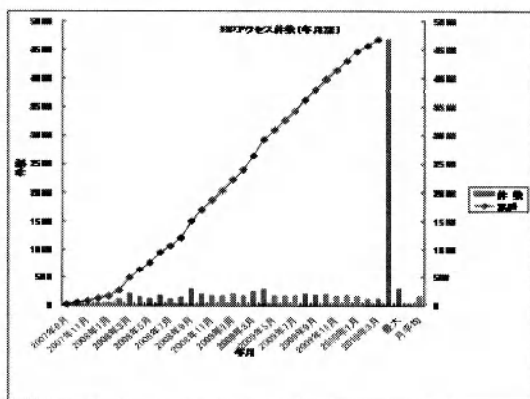
このグラフから日々アクセスして頂く件数(約5件/日)はまだまだ少ないように思っています。そのためにHP管理者は、内容(コンテンツ)を日々新たに更新したく、腐心しています。是非HPにアクセスして頂き、ご感想、ご意見をHPの「会員投稿コーナー」または「hatoh-net」に投稿して下さいをお願いします。

さらに、会員皆様からのHPに載せるためのエッセイ、小論文、詩、和歌、俳句、川柳、写真、放送大学生時代の思い出や感想等何でもよろしいので投稿をお待ちしています。ご協力のほどよろしくお願いします。

HPアドレスはこちらです ↓

http://www.geocities.jp/hatoh_net/

(hとnとの間はアンダーバーです)



波濤ネットの会へのお誘い

登録名 hatoh-net@yahoogroups.jp

波濤ネットの会は神奈川同窓会会員のグループメールです。前回の波濤38号で紹介した様に個人が持っている情報をメール網を使って発信し共有するシステムです。同窓会からの連絡事項のお知らせメールもありますが、情報といっても何も肩肘を張らなくても日常茶飯事の出来事でのよいのです。旅行に行った思い出やあのお店がおいしい、等々そんなものでよいのです。

発信すれば応答があります。話が話と呼び輪が広がります。話は変わりますが、オバマ大統領も使ったツイッターという140文字で発信する「つぶやき」が話題になっています。議員のつぶやきなどが公開されているのを読む

とその人の人柄が分かり興味を覚えるのです。同窓会のメール網もそんな類(たぐい)の肩の力を抜いたメールでよいのです。

神奈川同窓会の平成22年度活動計画で会員の絆を結ぼうということで会報誌 ホームページの充実、メールによる会員相互の交信の活性化に取り組んでいます。e-mailのアドレスをご一報いただければ登録いたします。皆様からの積極的な参加をお待ちしています。現在登録会員数82名

システム管理 岡本興和

okow1439@hotmail.com

放送大学同窓会連合会だより

藤井 輝

H21年11月28日・29日、放送大学本部において「同窓会創立20周年記念式」及び「全国同窓会代表情報交換会」が行われました。

1.同窓会創立20周年記念行事(1)記念式典

A:放送大学石弘光学長より、同窓会の大学への20年に亘る協力に対して感謝状が贈られ、森岡加代連合会会長が代表で受けられた

B:同窓会への貢献者15名に対して、森岡連合会会長より感謝状が贈られた。

神奈川関係は次の4名です。

- 藤田茂光氏 …… 同窓会初代会長
- 別所敏明氏 …… 〃 第3代会長
- 笠井政記氏 …… 連合会第11代会長
- 藤井 輝氏 …… 連合会監事(10年間)

C:パネルディスカッション

テーマ:放送大学の更なる発展に向けての役割
コーディネーター:本間文博副学長、パネラーは石学長をはじめ、大学・同窓会の5名で会場との討論を含め活発に行われた。

2.全国同窓会代表情報交換会

今回は青森から鹿児島まで、32同窓会の会長が参集し、同窓会の今後の有り方等、活発な意見の交換があった。



表彰を受ける森岡連合会会長

事務局だより

第21回通常総会行われる!

事務局長 吉原 司郎

平成22年5月16日神奈川学習センターにおいて、第21回通常総会が多数の参加のもとに盛会裡にうちに行われた。議案は21年度の活動報告、収支決算報告、22年度の活動計画、予算等が審議された。それぞれ、真剣な討議がなされ原案が承認された。また、本年度は役員の改選期に当たったため新役員の選出が行われ、木村勝紀新会長のもとに17名役員により運営することになった。

木村会長から同窓会設立20周年を念頭に「会員の絆を結ぶ仕組みの深化」を含め新基軸が提案された。「会員の絆を結ぶ仕組みの深化」については、

- 1.「波濤」編集記事の充実(IT利用の困難な会員を意識)
 - 2.「hato-net」参加会員の拡充と交信の活性化
 - 3.「ホームページ」コンテンツの充実(参画意識の醸成)
- 意欲的な施策が打ち出された。この後、特別講演(後記)と懇親会が和気藹藹のうちに行われた。席上、学習センターの渡邊所長より同窓生も身分が明示されれば学習センターの施設を利用できるよう改めたことが披露された。

当同窓会としても早速、身分の明示方法を決め周知徹底を図って、本年度の活動方針の「会員の絆を結ぶ仕組みの深化」の一助していく次第である。

特別講演

「なまはげ」の実演と解説<なまはげ伝導士はふるさとのPR大使>と題し、小野鐵雄氏(放送大学千葉同窓会会長)を迎え、ローカルカルチャーの素晴らしさを面白おかしく解説して頂いた。氏は(社団法人)男鹿市観光協会認定のナマハゲ伝導士の資格を古くからお持ちで、当日は男鹿で実際に使われている衣装?を着こなし巧みな話術で総会後の緊張を解す講演となった。講演時間1時間35分、聴衆58名の大盛況であった。講師に感謝、感謝です。



左右

青鬼の吉原司郎氏
赤鬼の小野鐵雄氏

新入会者のご紹介

(2009.9-2010.4 入会順、敬称略)

緒方 啓之	上代 益栄	長島 千恵子	
西山 哲郎	佐桑 慎二	有川 紀巳子	
坂元 了子	姫田 志明	赤松 孝子	家田 礼
小田 妙子	松島 一	福井 香織	
小野寺 愛子	神宮 滋	宮坂 正子	白垣 成
石川 武司	淵上 正子	高橋 静夫	
奥村 耕二	永吉 弘一	圓山 佳子	
山田 修市	金子 泉	好見さち代	
岡本 真智子	金森 一男	瀬戸 千衣子	
宮崎 典子	古川 奈穂子	土井 孝文	
坂本 由美	谷口 春江	野崎 修一	
柳澤 明男	林 和	芦田 澄枝	
塩澤 香代子	犬伏 秀一		

以上の40名です。よろしくお願ひ致します。

投稿のお願い

「波濤」は年2回の発行をし、記事につきましては投稿とご依頼原稿で紙面を作成しています。今年度は新たに活動概要の「会員の絆を結ぶ」という視点からも、皆様の感想・四季折々の思いやその他ご意見などをどしどしお寄せいただき、一層の内容の充実を図り、そして交流ができたらと考えております。皆様のご協力をお願いいたします。字数 900字以内です。事務局までご連絡をお待ちしています。

同窓会年会費納入のお願い!

平成22年度分の年会費未納の方は、早めにお納めの程よろしくお願ひ致します。

[振込先] ゆうちょ銀行口座 00250-4-16183

[加入者名] 放送大学神奈川同窓会

なおご不明の点がございましたら下記へお問い合わせください。

放送大学神奈川同窓会事務局長

吉原 司郎 電話:045-712-0903

編集後記

今冬は暖冬と言われ乍らも雪が数回降りました。只今、花冷えする毎日ですが、先日ヒバリの鳴き声を聞きました。波濤39号がお手元に届く頃は雨が気になることでしょうか。毎号編集委員会は、役員会の開催される日の午前中に3回程行われました。編集委員は長時間の拘束となりましたが「良いものを作ろう」という共通認識での話し合いや校正作業は、実に楽しかったです。

(渡邊)